

# 任期の折り返しで政策提言！

## 木村まさひろです。

木村  
まさひろ 後援  
会ニュース  
発行・編集：  
木村まさひろ  
後援会

## 町民の幸せと町政発展を願って

### 総務文教常任委員会から



いつもお世話になっております。  
高島町議会議員の木村雅博です。  
早いもので、4年任期の半分が  
経ちました。議会活動の柱となる  
委員会活動には「総務文教」と  
「産業厚生」の二つがあり、私は  
「総務文教常任委員会」所属です。  
その成果として「政策提言」を、  
令和7年6月20日（金）役場3  
階の委員会室にて、高梨町長をは  
じめとする執行部側へ提出いたし  
ました。

総務文教常任委員会の政策提  
言、テーマは二つで、「地域コミュ  
ニティーの活性化」と「高島高校  
の魅力化」です。

### 地域コミュニティ

自治会など地域コミュニティ  
組織は、まちづくりの基盤であり、  
中心的な役割を担ってきました。  
しかしながら、少子高齢化が進み  
社会状況が激変する中で、行事の  
継続が困難となり、役員のなり手  
不足に拍車がかかるなど、組織の  
存続自体も危ぶまれてきています。  
そこで、この問題を町の共通課  
題として次の提言を行いました。

- ① 地域コミュニティが抱える課題を調査、検討すべき
- ② 防災、福祉分野等の様々な団体、専門家と連携する
- ③ 自治会の在り方の検討と並行し、地区公民館が果たす役割の検討をおこなう
- ④ 県外入学者等の受け入れのため学生宿舎整備と運営支援
- ③ スクールバスの運行見直しと利用しやすいダイヤの再編成
- ④ 魅力化のため「高島高校魅力化推進会議（仮称）」の創設

### 高島高校の魅力化

少子化の波を受け、県立高島高校の入学者が減少しています。町の重要な教育資源である高島高校を支援し、魅力ある高校とするために次の政策を提言しました。

今回の提言に対して、年度末の3月には町から回答が寄せられる予定です。



## 新設「総務産業常任委員会」で委員長に就任！

高島町議会では、行政事務について調査・審査する範囲を所管として二つに分けています。

この度、これまでの「総務・文教」と「産業・厚生」の構成を見直し、「総務・産業」と「厚生・文教」に再編しました。

令和7年9月1日の臨時議会で、半期交代による体制を取り決め、私は新設した「総務産業常任委員

会」の委員長に就任しました。

開かれた議会を目指し、町民の皆さまとの語り合いの場を積極的に企画し、まちづくりに寄与する委員会活動を行ってまいります。

### 議会運営／広報

議会の活性化と議会運営を担当する「議会運営委員会」のメンバー

となり、「広報広聴常任委員会」では、議会だよりを担当する「広報部会」に所属します。







給食と一緒に食べた5年2組で、隣の男子児童から牛乳パックのたたみ方を教わった！

糠野目小学校の「学校農園応援隊」に加わりました。  
沢口地区内約1反(10アール)の農地に、3年生が秘伝大豆、4年生はジャガイモ、5年生は大根を植えて収穫まで行いました。残念ながら秘伝大豆の出来が良くなかったのですが、ジャガイモ・大根ともに豊作でした。12月の招待給食にも参加しました。



## 学校農園

菊池大二郎衆議院議員と高梨町長、三人で談笑↓



スナップ  
ショット

芳賀道也参議院議員と高梨町長→



涼んでいるご近所さんと舟山やすえ参議院議員↓



お声掛けいただいて「まほろば語り部の会」の末席を汚すことに相成りました。  
9月には糠野目生涯学習館で定期公演開催され、語り部デビュー「松川の河童」を題目にしました。とにかく観客席との距離が近くて、緊張、冷や汗ものでした。



## 語り部の会



## 防災士活動

防災士活動としてのデビューは、5月に開催された糠野目区長会・民生委員等懇談会で、自主防災について40分程度講演し、その後のグループディスカッションにも加わりました。  
さらにスキルアップして、発表機会を作っていきます。



## 高畠町合同式典

11月3日、文化ホールまほらにて、町制施行130周年・町村合併70周年の合同式典が行われ、功労者表彰、感謝状の贈呈がなされました。記念事業として、元京都大学総長、山極壽一氏による「ゴリラに学ぶ未来の生き方」と題した講演会が開催されました。



## 木村まさひろ後援会

事務所

〒999-2178

高畠町大字上平柳1995-15

連絡先 090-1379-1721

FAX 0238-57-3083

ホームページ: <https://masa-kimura.com/>

電子メール: [kimura@masahiro.name](mailto:kimura@masahiro.name)

木村まさひろ  
オフィシャルサイト



## SNS

フェイスブック  
Facebook



インスタグラム  
Instagram





きむらまさひろ  
木村雅博 議員



## 地域防災力を高める 取り組みは

町長 地域の防災活動との連携を進めたい

問 令和 7 年度施政方針の「安全・安心なまちづくり」において、「事前防災」の視点で町全体の防災力向上を図り、町民一人一人が防災意識を持ち、自主防災組織が本来の力を発揮できるようにとある。そこで、防災士養成講座への受講者を増やし、「防災士」により自主防災組織を強化する体制を行ってはどうか。

答 町内に居住または勤務する防災士で地域の防災活動へ参加を希望する方に、地区の自主防災組織連絡協議会への参画をお願いした。防災士の養成を継続し、今後も地域の防災活動との連携を進めたい。

自主防災組織で  
地区防災計画を

問 災害被害の軽減は自助・共助・公助の効率的な組み合わせで実現できる。「共助」の役割を負う自主防災組織が、「福祉マップ」や「地区防災計画」等の作成を進めるべきではないか。

動画配信はこちらから



内水氾濫に対する  
取り組みは

問 地区防災計画は福祉マップよりも具体的な災害時の行動などをまとめる機会となり、その重要性は認識しているが、まずは災害への備えに理解を深めてもらい、計画の作成は段階的に普及を図っていききたい。

問 県が新たに公表する情報を盛り込んだ「防災マップ」を作成する計画があるが、その主な内容と配布時期は。

答 新たな防災マップには、新たな土砂災害が発生するおそれのある箇所や中小河川の洪水浸水想定区域等を追加することとしている。配布時期についてはできるだけ早期に配布したいと考える。

新たな防災マップ  
の内容と時期は

問 想定を超える大雨が発生し、「内水氾濫」による被害が全国で相次いでいる。早急に山形県および農業用水路管理者と協議を図り、調査等を進めるべきと考えるが、どうか。

答 県では、内水氾濫の対策として、河川内の支障木伐採など防災対策を進めている。町としても、県、地

元土地改良区を始め、関係者からの意見を聞きながら、点ではなく面での整備を効果的に進めるよう、農業用水路管理者とも協議していく。

災害情報の活用と  
防災講習会の開催

問 防災に関する新たな情報が日々更新されている。

国交省や山形県による災害情報サイト、気象庁の「ナウキャスト」や「キキクル」な

ど、いち早く必要な情報を取得できる環境が整っている。

防災情報の取得方法について講習会を開く必要があると思うが、どうか。

答 7 年度、改訂する防災マップの説明会を自主防災組織単位で計画しており、その際、情報を得る手法についても説明を行う予定である。需要があれば、防災出前講座のメニューにも追加したい。



▲地域住民による支え合いマップの作成



きむらまさひろ  
木村雅博 議員



## 親しまれる 新庁舎となるために

町長 都度、改善を加えながら整えていく

問 新庁舎が5月7日  
開庁した。明るく暖か  
く開放感があり、それ  
でいてコンパクトにま  
とまっている。町の新  
しいシンボルとして、  
皆に愛される庁舎にな  
るよう祈念する。

答 窓口業務を集約し、  
ワンストップでサービ  
スを提供できる環境が  
整うなど、住民サービ  
ス向上につながってい  
ると考えている。

一方、新庁舎で業務  
を進めていく中で、い  
くつかの課題も見えて  
きており、都度、改善  
を加えながら、利用し  
やすい環境となるよう

努めていく。

職員の来庁者対応に  
ついての取り組みは

問 利用しやすい庁舎  
は、多様な機能と職員  
の丁寧な対応が組み合  
わさることを実現する  
ために、職員の来庁者  
対応等について、どの  
ような指導や取り組み  
を行っているか。

答 新庁舎では、入口  
の正面に総合窓口を配  
置し、来庁した方々に  
職員が声がけをしてい  
る。また、1階に窓口  
部門を集約し、移動距  
離が少なくなるよう設  
計した。

町産杉材や高畠石を  
活用して柔らかく温か

みのある印象となる工  
夫もした。

職員の人手不足に  
対する対策は

問 官製談合防止法違  
反等の容疑で本町職員  
が逮捕された件、福祉  
課での職員の不適切な  
事務処理が発生した件  
いずれも組織内の人材  
不足が根底にあり発生  
した事案である。

この問題に対して、  
長期・短期的観点から  
どのような対策を取る  
のか。

答 長期的には、業務  
の見直しやデジタル化  
による業務効率改善に  
より、限られた職員で  
もより良い行政サービ  
スが提供できるよう取  
り組みたい。

短期的には、経験や  
スキルを持った社会人  
の採用、インターン  
シップの受け入れなど  
により、優秀な人材確  
保に取り組む。

職員は大切な町の資  
産(人財)であること

問 町職員の仕事は、

地域住民の生活に密着  
した多分野で広範な業  
務があり、地域社会の  
発展に様々な貢献をす  
ることが求められる。  
ゆえに職員に必要な能  
力は多岐にわたる。

近年、公務員離れや  
若手の離職増が問題と  
なる中、新たに優秀な  
人員を確保し、大切に  
育て、人財を次代に受  
け継ぐことが重要であ

るが、町では現在どの  
ような取り組みを重要  
視しているか。

答 人材確保において  
は、実際の公務内容  
と、学生の公務職場イ  
メージのミスマッチ  
が、若い職員の早期離  
職等につながっている  
との分析結果もあるこ  
とから、インターン  
シップや職員との意見  
交換等を通して、高畠  
町を理解いただく機会  
を更に確保することが  
重要と考えている。



動画配信はこちらから



▲親しまれる新庁舎窓口